

岡山繊維産地協議会 検討会議準備委員会 （人材確保のための産地PR検討委員会）

議事要旨

日時：令和 6 年 9 月 12 日（木曜日）13 時 00 分～15 時 00 分

会場：倉敷ファッションセンター 1F ギャラリー（岡山県倉敷市児島駅前 1 丁目 46 番地）

議事要旨：

事務局より開会挨拶、本日の趣旨を説明した。

意見交換をファシリテーター佐藤豪人氏にて行った。

- ・当準備会については、今後、人材確保のため日本人の採用につながるよう活動することを目的とし、検討会議化を目指して検討内容について議論をお願いしたい。

なお、同時並行して、「人材確保のための外国人材用について、特定技能への取り組みと、外国人の定着を目指した活動について」検討会議化を目指して活動を行っている

また、金融検討会議も実施中で、いずれかの時点では繊維の検討会議との連携を期待している

- ・30年後にどのような産地にしなければならないか

企業により異なるといえるが、目指す姿はどのようなものか

例えば、クリーンな産地とは、賃上げを行う産地とすれば、金銭的な内容であり、金融との連携が必要な内容となるのでは？そこで、県などの行政が補助金を準備し、金融機関を通じて企業へすることで、企業の賃上げをサポートできるのではないか。

そう考えれば、認証マークの準備だけでは不足ではないか。なにか、具体的に企業の活動をサポートできるような支援策も必要では。

- ・取り組むならば、期限を決めなければならない。

- ・独自事業予算を準備できるならば、自由に時期を設定可能。

もし、行政に予算要求してみるならば、R6年度中にプラン作成、R7年度夏ごろまでに概要説明・依頼し、採択されればR8年4月から事業開始可能となるのが最短であろう

- ・意識を醸成しながら、制度を作成し、継続することで、理想の産地を目指す。

ファシリテーター佐藤氏より、発言があった

これまでの流れは、アンケートを実施し、課題を抽出して検討テーマを設定、テーマに従って分科会である検討会議を設置し検討中。計画ができれば、実施を目指すことになる。金融の力を活用すべきでは。地銀が融資すれば、他からの融資にも広がった事例もある。信用力が高まった結果といえる。

幸せな未来の面を描ける。

- ・認証ということであれば、当検討会議、または倉敷ファッションセンターとして独自の基準を設けて認証する方法も考えられるが、目指すべき姿の実現が、既に世の中にある認証

基準により示すことができるなら、それを活用しながら「目標として、取得を目指す基準の提示」、及び「いずれの企業が各々の認証基準をクリアしているかの公表」を行うことができるのではないか。

認証基準の一例は、別紙の通り

- ・インナーブランディングの手法で、社内を階層に分ければ、年配者より若手の方が当事者意識は強いといえる。

アンケートを実施してはどうか。人材やサステナブルなどのテーマで。

普遍的なテーマから始めれば進めやすいのではないか。

困りごとは明らかになっているので、それをどう解決するか、前向きな話し合いができるのではないか。

- ・各社が自分の会社のために「人が必要」。どうすれば人が来てくれるか。
産地として、「夢があるということをPRする」ことが必要といえるのではないか。
- ・現在でも、昔と雰囲気は変わっていないと感じている。児島の悪いところが悪いまま。
今、宇野は盛り上がっている。ある社の従業員の多くは宇野に住んでいる。
やはり、若い世代30～40代が中心となって産地について考え、その上の世代はこれを支えていくことが必要といえる。
宇野には繊維産業以外の業種が進出し、注目されている。
地域を盛り上げるには、繊維の製造設備を導入・新設するかどうかではなく、感度の高いことをしなければならないといえる。
ジーンズストリートと美観地区は目的が異なっている。
- ・問題は内側にあるといえる。
他社や他産地をうらやむばかりではなく、まずは自社の課題と向き合っていかなければならないといえる。各社、それができているか。
ビジョンを策定しても、全体に伝わっているか？そこから実行に移さなければ意味がない。

ファシリテーター佐藤氏より、発言があった

確かに、ビジョンは作るためではなく、探すためのものである。

作るだけでは意味がなく、そこから実行に移すことが必要である。

- ・自分もそう考える。

これまでは、自分と同じ目線の人たちと話せる場が無かった。それが、この様な場ができたことは大変ありがたい。

皆が同じ熱量で、方向性を揃えて、同じ方向に向かっていくべきである。産地内の人の考え方がズレていては駄目である。そこで、まずはビジョンなどを作って、考え方、方向性を揃えて、進めていければよい。

もしそれで、うまくいかなかったら方向修正すればよい。

限界まで話しても、相手は変わらない。

若手はフランクに、言いたいことが言えればありがたい。発言が否定されない、言ってもよいという安心感が必要。これにより、自分が産地内で孤独ではないと感じられる。

同じ産地内でも、織、縫などの業種が異なると、目線が異なる。この“目線”を揃えて初めて、自分は孤独ではないと認識できる。

（経営者の）立場になれば、物事が見えてくる。

ベテランの言葉を聞いて、意味の理解はできるが、どうかみ砕くか答えが出ていない

- ・批判より提案をすべきと考えている

もし不明なことがあれば聞けばよい

批判はしないことが重要

ファシリテーター佐藤氏より、発言があった

最初に、考える人、考えることを続ける人が現れ、

次にフォロワーの存在が大切。続く人が現れると、皆が続いてくる

- ・人を集めるために何をするかについて、目の前のことにとらわれ過ぎている

むしろ、余白や、あそびが大切と考える

会社でもあそびは大切。もちろん実務も大切であるが。

例えば、祭りのだんじりで、上に登る人もいれば、下で支える人もいる。下で支える人にも「たまには上に登って」といいたい

この協議会がコミュニティになると、面白いことをからめとって、産地が良くなるのではないかと期待している

しかし、枠組みが制限されてしまつては、あそびが難しくなる、、

若い人が出てきて、出てきた人が産地を引っ張っていくことが理想

遊べる場所を作りたい

ファシリテーター佐藤氏より、発言があった

今のところ、

- ・認証マークのようなものを作ること
- ・コミュニティを作ること

この様な方向性が出てきていると感じる

- ・「産地」というワード自体が既に古いのではないかと感じている

- ・認証、と、コミュニティですね

ファシリテーター佐藤氏より、発言があった

代官山ロータリークラブの活動等が参考になるのでは

- ・この人と働きたいから、この地域に行きたい、というようになってほしい

【まとめ】前回に続き、人材確保のための産地PRの検討会議立ち上げのため、準備委員会として若手経営者に参加いただき、方向性を探った。若手が考える産地の将来像として、クリーンな産地を目指すため認証マークを作るという方向性は固まってきたものの、具体的な取り組み内容については課題が多いといえ、今後も検討を続けながら具体的な取り組み内容を固め、事業化していきたい。

以上

お問い合わせ先

岡山県産業労働部産業振興課地域産業班

電話：086-226-7352 FAX：086-224-2165

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki43/>

一般社団法人倉敷ファッションセンター

電話：086-474-6800 FAX：086-474-6801

<https://www.k-fc.com/>